

茶系ペット飲料増産

60億円
投資

キンキサイン、新棟建設

【姫路】キンキサイン（兵庫県姫路市、山口祖廣社長、079・280・3185）は、茶系ペットボトル飲料を増産する。本社第二工場（同神戸町）に約60億円かけて新棟を建

設、3月に稼働する。省人化設備を導入して製造現場の作業効率を高め、OEM（相手先ブランド）供給する大手飲料メーカーの増産要請に応じていく。敷地面積約6万平方

メートルの本社第二工場に、延べ床面積約7300平方メートルの新棟「3号ライン」を建設する。同工場の製造スペースは現在比1・4倍の約1万1500平方メートルに広がる。第二工場全体の年間製造能力は現在比1・3倍の2200万枚になる見込み。

6月にフル稼働予定の3号ラインは、容量350ミリリットル2リットルの緑茶や麦茶といった茶系飲料を製造する。同525ミリリットル入り飲料を1

分間あたり900本作れる。工場内は作業者の負担を減らすため、自動で茶葉や添加物を計量・調合できる設備や、ボトルキャップを製造ラインに並べるロボットを導入する。

キンキサインは清涼飲料水の製造会社で、2017年12月の売上高は約234億円。うち9割が大手飲料メーカーへのOEM向けで、本社第二工場もOEM製品を手がける。富士経済によると茶

系飲料の国内市場は伸びており、18年は1兆443億円（17年は1兆373億円）に増えると予想している。

▲新設する「3号ライン」

